

前山仁郎君のこと

広瀬秀雄*

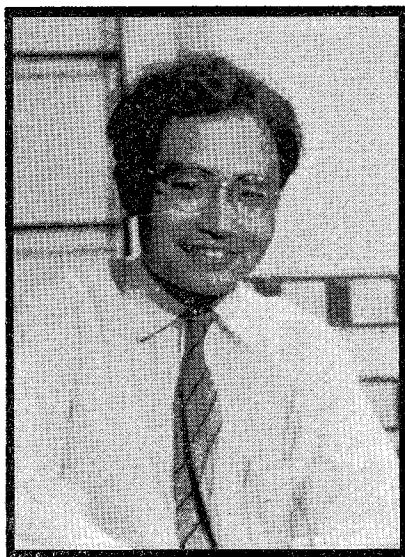
「高樹会文庫の調査、よろしく願います」と前山君に御願ひして、私は帰宅するため8月5日に中新湊駅から高岡市に向った。一方前山君は藪内、渡辺、中山の諸氏と新湊市役所のジープに乗って石黒信由の遺著を蔵する高樹会文庫に向かわれた。このように何の気もなく別れて、私は翌朝東京大学の宇宙航空研究所の設立準備会に出席したり、1週間後に控えた渡米の準備などに忙殺されていた。しかし前山君はその他の諸氏と総合研究「江戸時代の天文学」に関し、研究打ち合わせや調査などに従われ、8日頃には帰宅されて、私の留守中の報告を聞かせてもらえるものと楽しみにしていた。ところが9日朝前山君重態というしらせを軽井沢病院から受けとった。そして前山君はそのまま逝去された。

前山仁郎君は府立第一商業学校卒業後日立製作所に入社されたが、そこを退社されて第一高等学校を経て東京帝国大学理学部天文学科を昭和17年9月に卒業された。直に東京天文台に勤務されることになり、今日まで編暦関係の仕事に従事された。編暦という仕事は地味なものであるが社会に対する天文台の窓口の一つであり、その主務者は文化的、社会的、歴史学的の広い知識を持つことが必要である。このような仕事に前山君を迎えたことは天文台にとって幸福なことであった。ギリシャ、ラテンの古典語、数学、そして編暦史の研究に前山君はその活動の20年を注がれた。しかも非常に謙虚な人柄で、問えばいくらかでも資料を示されたが、人から勧められない限りその知識を示されることはなく、筆にされることもなかった。このことは君がその研究を真に楽しんでおられた事を示していると思う。しかし私は奥ゆかしいこの態度は、後進にとって一大損失であると考え、前山君が進んでその研究を発表されることを望んだ。緒方富雄氏の主宰される蘭学資料研究会にひっぱり出し、私とだき合せて研究発表を御願ひし、また昨年から発足した総合研究「江戸時代の天文学」にも有力なメンバーとして加わってもらった。君は業績を中心とする江戸時代天文学者の列伝というテーマについて精励された。私のしたことは或は君にとって迷惑なことであった

かもしれない。しかし見た所、君は非常に楽しそうに研究をしておられた。編暦の仕事電子計算機にさせるといふ仕事片づいたので、安心してこのような仕事に従うことができたからであろうか。

一方前山君は以前から史料編纂所の桃裕行教授と協力して宣明暦関係の研究を続けておられた。このような社会文化と関連する方面にとって君はかけがえのない人であった。私達は君に期待する所が大きかった。にもかかわらず突然死去された。私達の心中は「悲しいかな」というような一片の形式的語句ではとうてい表わせない。

前山君は有名な十数冊の調査ノートと数百巻の文献フィルムを残された。これは君が精根を傾けて調査された資料である。私はこの資料の宝庫を整理し、生前あまり口に、また筆にされなかった前山君の研究をできるだけ早く紹介したいと思っている。君はいらぬことをすると微笑されながらも、私のおせっかいをきくと喜んで下さると確信している。



故前山仁郎氏の略歴と著作目録

- 大正 2. 11. 13 東京巢鴨に生る。
 昭和 17. 10. 5 東京帝国大学助手兼東京天文台技手。
 19. 3. 1 東京天文台技師。
 21. 4. 1 文部技官(2級)。
 36. 5. 日本天文学会理事(編集)。
 38. 4. 1 東京大学講師。
 38. 8. 9 死去。49歳9ヶ月。
- 理科年表解説(暦の部)天文と気象、昭和26.4月号、
 明治時代の本邦時刻 天文月報 45, 182, 46, 12, 昭和
 28/29
 寛政暦書及び寛政暦書続録 天文月報 49, 56, 昭和31
 改暦問題の発展と近況 天文と気象 昭和32, 1月号
 ラ・ランデ天文書と寛政暦書・天保暦書 蘭学資料研
 究会研究報告 39号, 昭和33
 諸民族の暦 新天文学講座 XII 229, 昭和33
 高橋至時 天文月報 53, 39, 昭和35
 高橋至時の蘭学 蘭研報告 60号, 昭和35
 イタリア天文学の現状(F. Zagar, 前山氏訳)
 日本歴史における天文台の沿革(資料提供)
 世界暦をめぐる各国の反応 自然 昭和38, 9月号
 尚平凡社理科事典に暦関係の事項を執筆された。

* 東京天文台